



定住外国人の活用による 日本語指導者養成事業 ～外国人コミュニティコーディネーター養成講座～

前群馬県生活文化スポーツ部人権男女・多文化共生課 多文化共生係長 井田 智則

群馬県における在住外国人の状況

近年外国人の定住化や永住化、日本社会の少子高齢化が進む中で、在住外国人の能力や活力を活かし、地域の活性化を図ることが期待されています。政府においても、外国人材の活用を図ることが進められているところです。

群馬県には、平成 27 年 12 月末現在、44,798 人の外国人が在住し、出身地は 104 国・地域にわたっています（県調査）。平成 20 年のリーマンショック以降、県内在住外国人は減少し続けていましたが、平成 25 年に増加に転じ、近年は増加傾向が顕著になりました。ブラジル人やペルー人などの南米日系人が多く、永住者・定住者などの「身分に基づく在留資格」の割合が高いことが特徴です。最近では、ベトナム、ネパール、フィリピン、インドネシアなどからの技能実習生や留学生の増加が目立ちます。

【参考】過去 5 年の外国人住民数推移（平成 23 年までは外国人登録者数）

区分	H23	H24	H25	H26	H27
外国人住民数(人)	42,233	40,489	40,593	42,311	44,798
対前年増減(人)	△1,214	△1,744	104	1,718	2,487
対前年増減比率	△2.8%	△4.1%	0.3%	4.2%	5.9%

【参考】国籍別上位 5 カ国（H27.12 末現在）

1. ブラジル 11,219 人 (25.0%)
2. 中国 7,292 人 (16.3%)
3. フィリピン 6,274 人 (14.0%)
4. ペルー 4,501 人 (10.0%)
5. ベトナム 4,033 人 (9.0%)

※()内は外国人住民全体に占める割合

「支援者」としての外国人住民

外国人の定住化が進む中、在住外国人が地域社会に溶け込み、地域活性化に貢献できる人材となるためには、日本語能力の向上と日本での生活に必要な情報・知識を入手することが不可欠です。また、専門的知識・技能を身に付け、仕事のステップアップを図ることも重要です。一方、日本語能力と地域貢献意欲がありながら、その能力・意欲を十分に活かしていない外国人も多く在住する



養成講座（多文化共生推進士による講義）

と考えられます。

このような状況を踏まえ、本県では、能力と熱意のある外国人に日本語や日本の文化・制度等を指導する能力を身につけていただき、地域の外国人コミュニティにおけるコーディネーターとして養成し、地域人材の底上げによる地域活性化を図ることを目的とした「定住外国人の活用による日本語指導者養成事業」を実施しています。

日本語指導は日本人が行うことが一般的ですが、本事業では日本語指導をはじめ、日本文化・教育・職業・社会制度などの情報・知識について、外国人が外国人に、特に、同国人に対し指導を行っています。日本の文化・習慣の特殊性や外国との違いを、日本での経験を踏まえた視点から、母国語を介して指導することにより、ひと味違った魅力的な指導となるのではないかと考えています。

本事業は、伊勢崎市の NPO 法人「いせさき NPO 協議会社会貢献ネット」に委託して実施しています。講座で扱うテーマは日本語指導のみならず、日本文化・教育・職業・社会制度など幅広い分野に及び、関係する専門機関・NPO などとの連携が必要であるため、効果的な事業を実施できる団体として運営を任せています。

外国人コミュニティコーディネーター養成講座

平成 27 年度は、外国につながる人たちが地域

をむすぶ「外国人コミュニティコーディネーター養成講座」を開催しました。この講座で養成したコミュニティコーディネーターを核として、地域に在住する外国人の自律力の向上を図り、さまざまな活動が生まれ、地域活性化につなげることを目指します。

コーディネーターが第1グループとなり、自らの日本語能力を磨きながら専門的知識を身に付け、第2グループに指導を行い、更に第3グループに引き継がれ、継続的に知識や能力が受け継がれていくといったイメージを持っています。また、日本語能力が十分でない外国人に対して母国語による指導を行うことができるとともに、日本の学校に関する必要な知識を得ることで、子どもの教育にも良い影響を及ぼすことが期待されます。

講座は、平成27年11月～平成28年3月の土曜日に夜7時から9時まで開催しました。全10回シリーズで、2回毎に5つのテーマを設けています。

テーマ	主な内容
①在住外国人の状況と異文化理解	課題と国県市の施策、日本文化と各国文化、ネットワークの作り方
②日本語の教え方	指導の考え方と指導法、日本語教室の運営方法
③日本の学校制度と使用する日本語	日本と各国の学校制度・受験の仕組み、学校とのやりとりの日本語
④日本の職業と公的サービスの日本語	日本と各国の仕事文化、納税・健康保険・年金の仕組みとその日本語
⑤実践	日本語教室の実施、意見交換

受講者は一般公募により募集しました。募集対象者は、群馬県における定住者数の多いニューカマーの言語であるポルトガル語、スペイン語、中国語、タガログ語（フィリピン語）、ベトナム語の話者であり、日本語能力試験N2レベル以上を目安としました。公募の結果、外国籍または外国にルーツのある方33人が受講しました。国籍別ではブラジルが最も多く、ペルー、中国、フィリピンなどが続きますが、日本国籍の方もいらっしゃいます。

講師は、NPO法人いせさきNPO協議会社会貢献ネットのスタッフのほか、日本語指導を行っているNPOの指導者、社会福祉士会所属の心理専門家、ファイナンシャルプランナーで群馬県多文化共生推進士の方々です。講義はすべて日本語で行いました。

事業の成果

コーディネーターには、今後、実際に日本語指導者として活躍してもらうため、日本語教室の開設や、既存の日本語教室での活用などを検討していきたいと考えてい



養成講座（日本語の教え方）

ます。また、在住外国人からの相談対応や地域コミュニティへの情報発信者として、地域活性化に貢献してもらいたいと考えています。

その他、本事業の成果として、次のような効果があると考えます。

- ① 外国人コミュニティにおいて日本語教室を開設することにより、日本語能力の高い外国人の雇用機会が拡大する。
- ② 専門的知識・技能の習得を支援することにより、有能な人材の地域貢献が期待できる。
- ③ 日本の社会保障制度に関する情報提供や相談支援を行うことにより、生活困難者が減少する。
- ④ 学校外での日本語・教科学習を支援することにより、高校進学・大学等進学者が増加し、人材育成につながる。

土曜日の夜という日程にも関わらず、参加者は毎回熱心に講座に参加し、モチベーションの高さが伝わってきました。参加者の反応をいくつか紹介します。

- ・日本や群馬県の在住外国人の状況を知ることにより、自分たちの置かれている状況を理解できた。
- ・受講者同士のディスカッションを行うことにより、バックグラウンドの違う参加者が文化や制度、考え方の違いを発表し合い、改めて各国の文化の違いを認識することができた。
- ・外国人コミュニティコーディネーターとして活躍する際に、工場や通訳などの職業経験が、相談対応などに役立つ。
- ・日本語はできるが、文法は初めて習ったので、自らの日本語を整理することができた。

群馬県では、多文化共生社会の形成による豊かな地域づくりを目指しています。本事業の成果が群馬県内の多文化共生の推進に寄与することを確信しながら、事業を進めています。